

#### (4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 島根大学教育学部・教育学研究科
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名：【NITS カフェ in 松江】 校内研修・教員研修をどうつくるか ～主体的な学びを促す教員の資質向上～
<b>テーマ：</b> 主体的な学び手（児童・生徒）をつくるため、教員研修もまた変化が求められている。教員研修・校内研修もまた、学び手としての教師の主体性に働きかける必要がある。それでは、どのように教員研修・校内研修をデザインしていけばよいのか。今回の事業では、教育経営学や学習論の立場から教員研修についての研究・実践をリードされている立教大学・町支大祐氏を迎え、教員研修に関する最新の動向を講演いただくとともに、ワークショップを実施いただいた。本事業を、山陰地域における教員研修の新たな理論・実践についての学びの場・交流の場とすることを企図した。	
<b>内容：</b> 当初の計画では、前半に講演「校内研修・教員研修のありかた・方法論」に関する近年の理論・動向」、後半にワークショップ「主体的に探究する学び手を育てる教員組織をつくるための教員研修」という二部構成であったが、実際には講演とワークショップを細かく繰り返すかたちで実施された。参加者は、実際ワークに取り組んだ者が 24 名（島根大学教職大学院 M1 生 12 名、島根県教育委員会・指導主事 3 名、出雲市教育委員会指導主事 2 名、島根県教員 4 名、鳥取県教員 1 名、私立高校教諭 2 名）、参観した島根大学の教員が 13 名であった（全参加者 47 名）。4 人 1 グループとなり、講義を含むワークに取り組んだ。 全体は前半・後半の二部で構成されていた。前半は「リフレクション」を促す教員研修の方法論に関するもの、後半は「探究」活動を指導する教員集団形成に関するものであった。前半の大きな流れは、学びのためのチームビルディングのワーク、教員研修に関する動向の講義、レゴを用いたリフレクションを体験するワーク、教員研修の場の設定のポイントに関する講義であった。後半は、ケースメソッド（実際の出来事を記述したケース教材をもとに自分が当事者ならばどうするかを集団で討議する教授法）を実際に体験し、その上で探究活動を組み込むカリキュラムマネジメントについてグループ協議を行った。	
<b>成果：</b> 参加者の声として、「レゴを用いたリフレクションワークやそれに関する講義が新鮮且つ腑に落ちるものであった」、「教員研修を設定するときのポイント（寄り添う他者、シリアス・ファン、ポジティブな面に目を向ける等）がわかった」、「実際の校内研修で活かしたい」などが聞かれた。また、学年末の平日という多忙な時期であったにもかかわらず、上記のように多くの参加者を得ることができた。	
<b>アイデアや工夫したこと：</b> 1 山陰の地域教育課題である「教育魅力化」に資するよう、「教員の主体性」、「探究」を中核にした学びの場を設定したこと。 2 多様な媒体で広報したこと（山陰チーチャーズ LINE、島根大学教育学部・教育学研究科 facebook、島根大学教職大学院ホームページ）。 3 多様な人々の交流になるように、グループメンバーの構成に配慮したこと。	

<写真・図など>

講演とワークショップの組合せによる進行



講師



ワークショップのようす

